

+Affiliated with the International Association  
 THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOJI  
 Chartered October 30, 1994



〒194-0211  
 東京都町田市相原町1857  
 長谷川 あや子  
 TEL.&Fax:042-771-6962  
 E-mail: ayako.h3@nifty.com

2026年3月

The Service Club of The YMCA

第369号

## 東京八王子ワイズメンズクラブ

会長	長谷川 あや子
副会長	久保田 貞視
書記	小口 多津子
会計	稲葉 恵子
直前会長	並木 真
担当主事	西嶋 健太
ブリテン	山本英次 大久保重子

国際会長 エドワード・オン (シンガポール) 主題「信念、愛、行動」
スローガン「共に、より強く」
アジア太平洋地域会長 田上 正 (熊本むさし) 主題「信念と愛を持って行動しよう！」
スローガン「YMCA、ユースと共に地域社会に貢献しよう」
東日本区理事 山下 真 (十勝) 主題「ワイズのらしさ再発見」
スローガン「Change!」
あずさ部部長 山口 直樹 (東京武蔵野多摩) 主題「垣根を低くし、活発な活動を」
八王子クラブ会長 長谷川 あや子 主題「若い人の成長を願い、ともに歩む」

### 2026年3月チャリティーコンサートプログラム

日時: 3月28日(土) 14:00~16:00 (開場:13:30~)  
 会場:八王子市北野市民センター 8階ホール  
 京王線北野駅北口徒歩2分  
 \*お問い合わせは、090-2213-0257 花輪まで  
 主催:東京八王子ワイズメンズクラブ  
 後援:八王子市 地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)  
 プログラム

- 13:30 開場(各自受け持ち場所待機)  
 受付開始 会定席案内 照明 舞台準備完了
- 13:55 司会者より注意事項アナウンス
- 14:00 会長挨拶 会長・長谷川あや子  
 祝電披露 司会・西嶋健太  
 JCBL代表挨拶 JCBL理事 清水俊弘氏
- 14:15 第一部開始 ソプラノ 山口佳子 ピアノ 矢崎貴子  
 主な曲目・山田耕筰:あわて床屋 など
- 15:00 休憩(15分間)
- 15:15 第二部開始
- 15:50 みんなで一緒に歌いましょう!  
 『フニクリフニクラ、早春賦、高原列車は行く』
- 16:00 花束贈呈 中央大学ひつじぐも 学生2名  
 終演



#### 先月の例会ポイント (2月)

在籍	11名	切手	計	0g
メン	11名			
メイキャップ	0名			
出席率	100%	現金		0円
メネット	2名	スマイル		11,500円
ゲスト	1名	累計		89,650円
ビジター	0名			
ひつじぐも	1名			

今月の聖句(2026年3月)  
 愛は忍耐強い。愛は情け深い。妬まぬ。愛は自慢せず、高ぶらぬ。礼を失せず、自分の利益を求めず、怒らず、悪をたくらまない。不正を喜ばず、真理を共に喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。  
 (コリントの信徒への手紙13:4-7 聖書協会共同訳)

# 巻 頭 言

## 第24回チャリティーコンサートの開催にあたり

チャリティーコンサート実行委員長 花輪宗命



寒暖差の激しい日々を経て、春色が迫るこの3月28日、いよいよ八王子ワイズメンズクラブが誇る看板CS事業の「チャリティーコンサート」が開催される運びとなりました。

私達の切なる願いと祈りを込めたこの事業も、2020年から

4年間、コロナ禍でやむなく中止に追い込まれるなどの受難の時期を余儀なくされたこともありましたが、その伝統はほぼ四半世紀に及び、今年は第24回を数えるに至りました。

初めは、ワイズメンズクラブ国際協会創立75周年を記念し、1997年、八王子市在住の三上佳子さんのソプラノ公演を中心に、当時の世界の課題であった「対人地雷の廃絶に向けた取り組み」を支援するための寄付を募るチャリティーコンサートとして開催しました。その後は、時代の変化を反映して、わが国の各地で頻発した大規模自然災害(東日本大震災や能登半島地震・豪雨災害など)の被災者支援のためのチャリティーもカバーするように発展させてきました。

しかし、近年の世界情勢は、残念なことに、私達の願いと祈りに反して、益々悪化の一途を辿り、世界各地で、無垢の市民や子供たちが痛ましい犠牲を強いられています。

八王子ワイズメンズクラブは、非人道的な武器の犠牲を強いられている方々の幸せを願ってチケットを購入してくださった皆さまの貴いお志を、この運動に携わっている団体のもとに、確実にお届けできるよう、当クラブの総力を挙げて取り組みたいと思っています。

今年は、八王子北野市民センター8階ホールで、地元八王子出身の世界的なソプラノ歌手山口佳子様と矢崎貴子様のピアノ協奏をお届けするコンサートとなります。

私どもは、多くの皆様がお誘い合わせてご来場頂き、素敵な歌と演奏をお楽しみ頂いた上で、皆様の貴いお志を、世界平和を希求する活動に届けたいと願っております。

## 街頭募金活動

JR八王子駅北口にて



### 会長 長谷川あや子 慰労の言葉

みなさま おはようございます。

昨日はお疲れさまでございました。

特にCS委員長・花輪さん、事前から数々のご準備ありがとうございました。そして応援して下さいました田中博之さま、並木真さんのご友人前田さま、ひつじもOBの渡邊敦さま、現役ひつじものみなさま、大勢の方のご協力でも今年も街頭募金を実行することが出来ました。

能登地震から2年以上過ぎましたが、被災された方はまだまだ大変な思いをされています。

子ども達へのケアも心配です。

私たちの小さな働きが少しでもお役に立てば幸いです。

寒空に立つのは大変ですが、若い方の応援に私どもも元気づけられています。

昨年来、募金に協力して下さいるのに中年の男性が増えたことに驚き感銘を受けております。

小さなお子さんが小さな手で募金して下さいる姿に未来を感じ暖かな気持ちになりました。

改めてみなさま、ありがとうございました。

チャリティーコンサートも一致協力して地域に根差した楽しい集いをしていきたいと思います。



## はじめての街頭募金

### 中央大学ひつじくも 2年 鳥越琴乃

中央大学総合政策学部2年、ひつじくもの鳥越琴乃です。最近、春休みということもあり、先日1週間ほど地元の新潟に帰省しました。今年は大雪で、道路の脇には高く雪が積もり、あたり一面が雪景色でした。東京とは違う冬の景色に触れ、改めて地元の冬を思い出しました。



さて、3月7日(土)13時から、八王子駅北口にて能登半島地震の被災地支援のための街頭募金活動を行いました。今回の活動には、ひつじくもから3名が参加しました。

多くの人が行き交う駅前では募金への協力を呼びかけた結果、最終的に63,335円の募金が集まりました。足を止めて話を聞いてくださる方や、「応援しています」と声をかけてくださる方もいて、多くの方の温かい気持ちに触れることができました。能登半島では震災から2年が経った現在も、まだ日常を取り戻せていない方が多くいます。住宅やインフラの復旧が進む地域がある一方で、生活の再建には長い時間がかかるという現実があります。また、震災から時間が経つにつれて、被災地への関心が薄れてしまうという課題もあります。そのため、街頭募金のような活動を通して現状を伝え、支援の必要性を改めて知ってもらうことにも意味があると感じました。実際に活動に参加してみて、人々の関心を集めることの難しさを実感しました。駅前では多くの人が忙しく通り過ぎていき、声をかけてもなかなか立ち止まってもらえないこともありましたが、しかしその一方で、わざわざ足を止めて募金をして下さる方や、温かい言葉をかけてくださる方の存在がとても励みになりました。今回の活動を通して、被災地支援には継続して関心を持ち続けることが大切だと改めて感じました。

今回集まった募金が、少しでも被災地の復興や生活の再建に役立つことを願っています。

今後もこの経験を大切にしながら、社会の出来事に関心を持ち、自分にできる形で関わっていきたく思います。

## 東日本大震災被災者への支援状況

### 東京八王子クラブ 久保田貞視

2011年3月11日の東日本大震災の翌日12日は第14回地雷廃絶のためのチャリティコンサートの開催日であり、メンバー全員が会場に集りチャリティコンサートの中지를決定しました。開催当日来場者のうちチケット購入者には返金と共に、地雷廃絶キャンペーンと東日本大震災支援募金とに分けて寄付をお願いしました。更にIBCの高雄ポートクラブから93,000円の寄付があり、仕訳けた寄付金のうち東日本大震災向けは400,176円に上りました。又、2020年もコロナ禍のためコンサートを中止しましたがチケットの販売代金は寄付をお願いし、その1/2の40,000円を加えました。当クラブとして震災直後から被災者の支援策を協議し、メンバーの高齢化のため直接ボランティアとしての参加は困難のため、まず、八王子駅前で中央大学ひつじくもの学生の協力を得て街頭募金を実施、更に東京YMCA西東京センターの国立駅前での街頭募金には殆ど毎回数人で参加し協力しました。又、クラブとしての資金面での最大の協力は、1998年から継続していた地雷廃絶のための街頭募金とチャリティコンサートですが、2012年度からは、街頭募金とチャリティコンサートの寄付金を地雷廃絶キャンペーンと東日本大震災被災者支援に二等分し、2019年3月まで続けました。これまで東日本大震災被災者への寄付金総額は、1,588,176円に上り、すべて東日本区の震災支援の口座に振り込みました。更に2019年度は85,000円を東京YMCAの東日本大震災支援の口座に振り込んでいます。加えて、東日本大震災当初の被災者支援としては2011年8月に盛岡YMCA宮古ボランティアセンターで、「焼きそば・たこ焼き」の一日スポンサーを募集しており、一日分の材料代30,000円を送金し、東京八王子ワイズメンズクラブ主催の「焼きそば・たこ焼き」を被災者に提供しました。あの震災から早くも15年経ちます。



三世代に渡る街頭募金活動【2026年3月】

## 来賓 JCBL 理事 清水俊弘氏 講演要約

### Zoom 講演会に参加しての感想:小口多津子

JCBL 清水氏の講演は35名参加のZOOM オンライン、しかも名前のみで顔出しをしないことが条件でした(後で、ユーチューブに掲載されるため)。

お話の終わりの質疑応答で久保田さんが一つ質問をされ、その答えの流れで、清水氏は、『今月28日に東京八王子ワイズメンズクラブのcharityコンサートで、最初にお話させて頂く機会を頂きました』と宣伝もして下さいました。花輪さん、山本さん、久保田さんが参加。

主な内容の一部ですが、「地雷廃絶運動は、あちこちの国が参加していますが、殆どは地雷除去を訴えるのが中心で、根絶を訴えています。けれども、私共のJCBLは、一番に力を注いでいることは、地雷被災者支援に限っています。それは、この地雷関連の運動の中ではわずか6%しかやっていない。JCBLが、一番に力を入れているのはミャンマーのカヤ州、ここで特に地雷で被災された若者の心のケア、地雷回避教育の推進、サポートミーティングを開いて地雷で絶望感の底にいる若者たちを苦境から脱却させる為に、将来へ繋げる資金面でのサポートをしていること」の話でした。

## ミャンマーの軍政、地雷問題、人道支援

日時: 2026-03-17 場所: [Zoom]  
講師: [清水俊弘理事]



### 要約

本講義は、ミャンマーにおける軍政下の厳しい市民生活、特に深刻化する地雷問題と人道支援活動について報告するものである。

ある。軍政による武力弾圧、不透明な選挙、物価高騰、通信制限といった市民生活への影響に加え、カヤ州(カレンニー州)とシャン州南部を中心に紛争による国内難民が増加し、地雷による犠牲者が急増している現状を詳述する。こうした状況下で活動する支援団体 DKK の取り組みに焦点を当て、避難民へのシェルター建設、生活用水確保、医薬品・食料配布などの具体的な支援活動と、地雷犠牲者に対する経済的・精神的支援、地雷回避教育(MRE)の推進といった活動内容、その成果と課題を説明する。今後の活動として、支援拠点の移転検討、MREの多言語化、国際社会への働きかけ、継続的な資金調達の可能性を訴えている。

### 知識点

#### 1. ミャンマーの政治・社会情勢 総選挙とその結果

2025年12月から2026年1月にかけて総選挙が実施されたが、これは軍政から民政への移管を示すためのパフォーマンスと見なされている。



戦闘が続く67地区では選挙が行われず、DKKのメンバーは「茶番であり、結果に意味はない」と評している。

親軍勢力が議席の約9割を占め、2026

年3月に下院が招集されたが、ASEANはこの政権を承認しておらず、日本政府も遺憾の意を表明するなど、国際社会の承認は不透明である。

#### 軍政による市民生活への影響

軍の武力行使による死者は、2025年夏中盤までの5年間で8000人に迫る勢いで、現在ではそれを超えている可能性が高い。

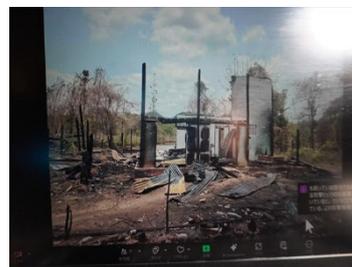
経済制裁や輸入規制、不作により物価が高騰。最近ではイラン情勢の影響でヤンゴンでも給油制限が実施されている。

#### 人材流出と社会の分断

徴兵や戦闘により若者の労働力が不足し、徴兵を逃れて海外で就労する若者が増えている。

軍政は、通信の支配、検問、ランダムな職務質問、送金の禁止などで市民の連携を分断し、残虐行為が外部に漏れないようにしている。ヤンゴンでは抜き打ちで携帯電話を調べられるため、通信履歴の全消去が必須となっている。

#### 軍による無差別攻撃と地雷の使用



カヤ州では、一般住宅地、学校、教会など民間施設が

国際法に違反する空爆を受けている。これは抵抗勢力

を疲弊させることが目的とされる。

攻撃後の住宅地には、住民が戻れないように地雷が埋設され、ドアを開けると爆発する仕掛け式の地雷も設置されている。

## 2. 地雷問題の深刻化

### 地雷犠牲者数の急増

2024年度のミャンマーにおける地雷犠牲者数は2029人に達し、前年の1003人から倍増。これは世界全体の3分の1強を占め、世界最悪の状況となっている。犠牲者の8割以上が民間人で、うち2割以上が子供である。累計の犠牲者数は数年前に4万人を超えたと推計される。

### 軍政による地雷の使用

軍政は少なくとも5種類の地雷を生産・使用し、住民が去った後の家、畑、寺院、学校など生活インフラに敷設している。

これは人々を集団的に危機にさらし、抵抗勢力を疲弊させる戦略的な「集団的懲罰」と見なされている。

## 3. 支援団体 DKK の活動と避難民・犠牲者支援

主な支援現場は、首都ネピドーに近いカヤ州とシャン州南部の州境地域。DKKは、新たな避難民のために分解・移動が容易な簡易シェルターを160棟建設した。



雨水を貯めるための「ターボリンプール」を作成し生活用水を確保。これも移動先で再利用可能である。医薬品は軍の監視強化によりタイからの購入が増加。治安と資金が許せば、月に1~2回のお米の配給も行っている。

2025年からは医療従事者を中心に山間部に手術可能な拠点病院を設立している。

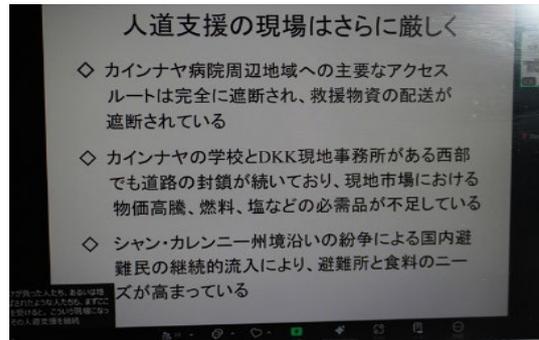
### 地雷犠牲者支援(JCBLとの協働)

2022年から4年間、地雷犠牲者の治療や社会復帰を支援。生きる希望を取り戻す第一歩として、生活再出発のための小規模な資金提供を行う。

今年度は16名のサバイバーに一人当たり80万チャット(約3万円)を支援。資金は家畜飼育、雑貨商の開業、治療費、義足購入などに使われる。

過去4年間で89人に支援を実施。義足で通学できるようになった少女や、事業を拡大した男性などの成功事例がある。

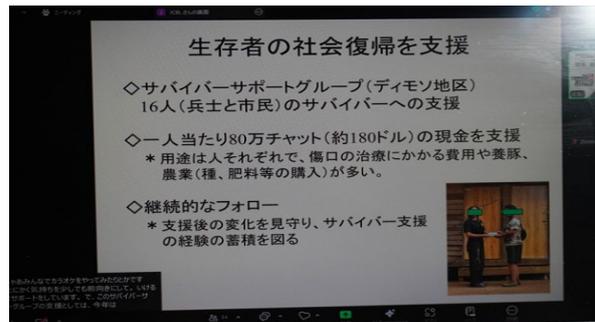
同じ境遇の人々が語り合うサポートミーティングを開催し、精神的な孤立からの脱却を促している。



### 地雷回避教育(MRE)の推進

地雷の犠牲にならないための予防策として、危険回避教育(MRE)に力を入れている。

カヤ州に35の言語が存在するため、教材の多言語化が重要。今年度はカヤー語、カヤン語、カヨー語の3言語で啓発ポスターを制作し、人々の集まる場所や学校で啓発活動を行っている。



## 4. 今後の課題と取り組み

### 支援活動の継続と拡大

引き続き、避難民の生活支援と地雷犠牲者の社会復帰支援を行う。

支援拠点を治安が良く物資調達しやすいタイ国境付近へ移転することを検討中だが、避難民との距離が課題となっている。

リハビリや義肢装具製作の技術を習得できる学習機会の創出を目指す。

### 国際社会への働きかけ(アドボカシー)

オタワ条約に未加盟のミャンマー軍政に対し、地雷不使用を国際社会全体で訴える。

民族武装勢力に対しても、民間人の犠牲リスクを伝え、地雷の完全不使用を働きかけ続ける。

国軍の資金源を断つためのアドボカシー活動にも協力していく。

### 支援の呼びかけと情報共有

円安で資金調達が厳しく、2026年6月1日からクラウドファンディングを実施予定。

**能登半島災害復興支援**  
**輪島市町野町との繋がりについて**  
 2024年1月1日 能登半島地震  
 2024年9月20日～23日 奥能登豪雨

寄稿:東京YMCA 会員部 熊沢佳代さま

石川県奥能登を襲った2つの大災害で、このエリアは壊滅的な被害を受けました。一年足らずの間に、一生に一度あるかないかの大災害を2度も受け、2年経った今でも復興への道のりはまだ道半ば、先の見通しも立たない状況が続いています。しかしながら現地の皆さんは懸命に復興(新しい街づくり)に向けて歩みを進めています。

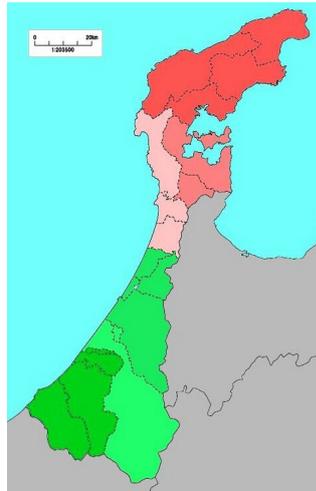


東京YMCAでは、震災直後より輪島市からの要請を受けた日本YMCA同盟を通じて、避難所支援活動を開始。輪島市町野町にある避難所(町野小学校・東陽中学校)に東京YMCAスタッフを交替で派遣し、輪島市の職員とともに避難所運営サポートに従事してまいりました。避難されている方々のニーズを聞き取り、生活を支えるための支援物資も届けるなど、町野町での支援活動を行っていききました。

また、同年9月に襲った豪雨では、震災から少しずつ復興に向けて士気を高め始めた中での大災害となり、被害は震災以上ともいわれています。震災の時のように避難所生活を送った学校も大量の泥にまみれ、多くの備品なども再起不能の状態。その為、我々東京YMCAの支援活動も滞在型をとることができなかつたので、毎週末にスタッフを2～3名を現地に派遣、タイミングによっては専門学校の学生らも交え、富山YMCAスタッフとともに、約2か月ほどに渡り、町野町での泥かき作業を行い、被害に遭われた方々との交流も深めました。

私はこれまでに3回ほど現地に赴きましたが、豪雨災害で再び町野町を訪れた際には、震災時に避難所生活をしてきた方々は学校裏にできた仮設住宅で新たな生活を始めている方も多く、数名の方と再会することもできま

した。大きな災害を受けながらも、YMCAスタッフの訪問は予定外であったにも関わらず、大変喜んで迎えてくれたことは今でも印象深く記憶に刻まれています。



2度の災害から2年が経ち、東京YMCAとしては現地に赴くような支援活動を行うことはできていませんが、輪島市内、町野町でつながりを持たれた方々を通じて、現地から色々な物産品を取り寄せ、東京YMCAのイベント開催時には「能登半島災害

復興支援」と称して物産品販売を行うようにして、「買って応援！」を実施しています。

物産品を取り寄せる中でのエピソードを交えて、現地の現在の様子もお伝えしたいと思います。

**エピソード①:さいはての谷内(やち)のお豆腐**

町野小学校の裏手にある豆腐屋さんで、地元では知らない人、食べたことのない人はいないくらい有名です。震災では自宅はもちろん豆腐工場にも大きな被害が出ましたが、いち早く営業を再開していました。軽トラでの移動販売も行っていて、販売地域の皆さんにとっては、物資が滞る中に親しんだ商品が届き、多くの方々に感謝されたことでしょう。このご家族には、避難所にな

っていた町野小学校に通う小4のお子さんがいますが、震災以降富山YMCAが行う招待キャンプへ参加を続けてくださっています。小学校のグラウンドが仮設住宅になったことで、授業にも影響が出ていたり、引っ越してしまつた仲間も多くいることで、子ども同士で遊ぶ機会も少なくなっている中、YMCAのキャンプは子どもにとっては本当に大切な機会になっているとのこと。避難所にYMCAが来てくれたことでこうした機会にもめぐり合せて感謝しているとおっしゃってくださっています。



こちらの商品はどれも絶品なので、毎回取り寄せて販売しています。

**エピソード②:御菓子司 吉野屋さん**

震災直後から町野小学校に家族で避難所生活をされていきました。震災で家も工場も店舗も倒壊、続く豪雨で被害拡大。店舗再開の見通しが立たない状況が続いていきました。あいつづ苦難の中、25年12月下旬、町野町に数

件が入る仮設商店が建ったことで、吉野屋さんはそこに入ることができ、営業を再開できることになりました。この情報は、インスタグラムを通じて知ったので、DMで連絡を入れたり、豆腐屋の谷内さんから電話番号を聞くなどして、お店のご主人と直接連絡が取れるようになりました。避難所生活でYMCAが携わっていたことは覚えていてくださっていて、こうした再会を大変喜んでくださいました。こちらの商品は、1/31に行ったソシアスフォーラムで初めて取り寄せ、会場参加者の皆様へ和菓子を振舞うことができました。輪島市の伝承和菓子も多くあり、東京では大変珍しい商品です。吉野屋さんは「あんこ」がとにかく絶品。これからも機会があるたびに取り寄せたいと思います。

### エピソード③: 輪島市町野町市民活動家 柴田剛さん

我々が行ってた町野町での活動の様子から、YMCAのことを知っていただいたことから、関係が始まりました。柴田さんは元々、商店やスーパーへの商品の卸業をされていたようで、輪島朝市にも伝があるとおっしゃっています。今回の災害を通じて自分も被災者ではある中、支援者のひとりとして町野町で活動するようになっていたところ、YMCAとの出会いがありました。この出会いによって、東京YMCAで輪島の商品を売って支援活動をしてもらえないかといった申し出を受けて関わるようになりました。柴田さんは自ら商品を買って、東京へ商品を送ってくださいます。中には倒壊家屋・商店から掘り出された輪島塗の漆器類など体裁をよくして数多く送られて来ました。また、輪島朝市商品の海産乾物類も数多く送ってくださいます。珍しい商品ばかりですので、YMCAでの物産展ではすぐに完売です。

柴田さんは、売れ残った商品は返品可能、全体売り上げの10%は東京YMCAの能登半島への募金へ入れて、残金を送金してくれればよいと言ってくださっています。被災者ながらも自らが支援者として活動されていることに頭の下がる思いです。

「気候がよくなったら、東京に行こうと思っている」とのことですので、直接お目に掛かれる日を楽しみにしています。

### エピソード④: 輪島市老舗旅館「能登の庄」

輪島市内にある高級老舗旅館。地元では家族の祝い事や法事、食事会など特別なことで利用されることも多くあり、市内では有名な旅館の一つです。こちらの若主人は、東京YMCA国際ホテル専門学校卒業生でもあることから、震災直後の現地視察を行った時からお世話になっています。

この旅館も震災で甚大な被害を受けました。旅館は海岸沿いに面した場所にあり、地震によりこの一帯、海岸沿い100kmに及ぶ海岸隆起が起きました。そのことで海岸から陸地に向けて3m~5m広がるように地面が動いてしまいました。その影響で旅館は、建物自体が傾いてしまい、そ



の下にある上・下水道の配管がすべて壊れてしまうなど、見当もつかない程大きな被害を受けています。震災から2年経った今でも、旅館としての営業はできていませんし、未だに断水した状態が続いています。唯一の救いは、旅館横別棟に日帰り温泉を有していて、そこは配管が別だったことで、震災から約半年後、奇跡的に温泉水が戻って来たので、現在では日帰り温泉のみ営業できています。旅館については、再施工に向けての資金確保も含め課題が多いようで見通しが経ちにくい状況ようですが、近隣周辺を工事している作業員の方々や、別地域から来るボランティアの方たちへ素泊まりの受け入れをして、低料金ながらも収入につなげているようです。元々この旅館では通販も行っていて、能登の庄オリジナルの出汁パックや、温泉の素など購入できることもあり、YMCAではこれらの商品を取り寄せ、イベントごとに販売をしています。最近では能登の地酒を選んで送ってくださるなど、能登のよいところもいろいろと教えてくださっています。YMCAでつながる縁はこれからも大切にしていきたいです。

石川県ではYMCAでの活動がないこともあり、支援開始直後はYMCAとはどんな団体なのか?と多くの質問を受けることもありました。そういった中、長期間に渡り被災者と同じ空間で生活をともにしたことで、僅かばかりでも皆様の気持ちに寄り添うことができたのではないかと思います。被災地・者支援と言っても日常的に大がかりな支援はできませんが、これからも寄り添う気持ちを少しでも形にして行けたらと思います。

この縁を大切に、継続した支援活動を行って参ります。

## 今月の聖句に寄せて (2026年3月)

新約聖書のパウロの手紙には、愛についての記述が多くあります。その中の、ローマの信徒への手紙で、キリスト者の生活の指針として次のように述べています

「愛には偽りがあってはなりません。」「兄弟愛をもって互いに深く愛し、互いに相手を尊敬し、怠らず励み、「希望をもって喜び、苦難に耐え、たゆまず祈り、聖なる者たちに必要なものを分かち、旅人をもてなすよう努めなさい。」「喜ぶものと共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。」「誰も悪をもって悪に報いることなく、「すべての人と平和に過ごしなさい。」

そして、真実の愛とはどのようなものなのか、愛の定義ともいわれる言葉が、コリントの信徒への手紙で示されています。結婚式などでもよく読まれる箇所です。結びの箇所で、愛の4つの姿が示されます。「すべてを忍び、「すべてを信じ、「すべてを望み、「すべてに耐える。」そして、「それゆえ、信仰と希望と愛、この三つはいつまでも残ります。その中で最も大なるものは、愛です。」と示します。

さらに、ローマの信徒への手紙の他の箇所で「互いに愛し合うことのほか、誰に対しても借りがあってはなりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです。」とも述べます。

イエス・キリストは、「私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これが私の戒めである。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」「互いに愛し合いなさい。これが私の命令である。」(ヨハネによる福音書)と、私たち人間に向けて、ご自分自身の言葉で語りかけています。

イエス・キリストはご自分の言葉通りに、ご自身に何の罪もないのに、私たち人間の罪を背負って十字架上の死を遂げ、その後、復活を遂げられました。

今年のイースター(復活祭)は4月5日です。



## ワイズ・ナイトフォーラム

長谷川あや子

2021-22年度にワイズ・ナイトフォーラムが初めて開催されてから4年が経ちました。2022年2月に行われた時は各部のCS活動の発表が主な内容で、あずさ部からは甲府、富士五湖、八王子クラブの発表を行いました。作成に当たっては甲府21クラブの山本俊一さんや我がクラブの山本英次さんに大変お世話になりました。当時、あずさ部部长であった私にとっては大きな行事で緊張いたしました。多くの皆さんのお力で出来たと今でも感謝しています。

第2回の2024-25年度は他部の発表—東京多摩スマイルクラブの野菜講座も大きな反響を呼びました。

そして第3回ワイズ・ナイトフォーラムは東日本区のTOP活動として行っている「不登校問題」が3回シリーズで取り上げられました。

第1回(1月25日)は山梨YMCAでの不登校の子どもたちへの活動。

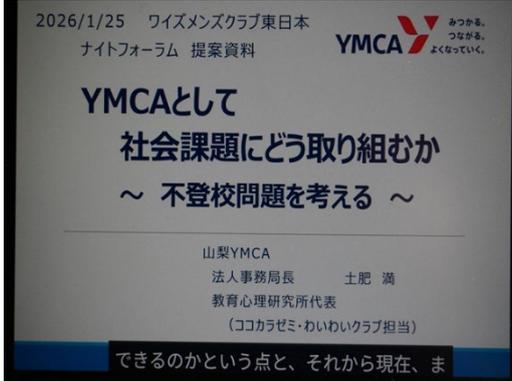
第2回(2月15日)は富山YMCA上村総主事のお話でした。八王子クラブから花輪さん、山本さん、長谷川、そして私の友人二人を誘ってZoom参加いたしました。友人の一人は娘さんが中学生の時、不登校となり大変苦労されましたが、「こんな対応をしていければもっと違ったかもしれない」と感想を寄せてくれました。現在そのお嬢さんは就職し、立派に自活していらっしゃいます。“嵐は恵みのとき”かもしれません。

富山YMCAのフリースクールは「不登校になった子どもが自信を持てるきっかけ作りをしたい」という思いで30年前に始められたそうです。学習の他にチャリティクリスマスやYMCAのボランティア活動に参加し、人から感謝されるという経験が自信につながるようです。フィリピンでのスタディツアーという経験もあります。そこでのボランティア活動を通じ、日本での狭い価値観から解放され大きな一歩を踏み出すのでしょうか。そして卒業式を迎えます。フリースクールはパラダイスではありません。我慢やルールを学ぶ、でも失敗しても許される、そして仲間がいることを実感して次のステップへと踏み出して行きます。YMCAは「架け橋」です。

シニア世代と関わることはとても大切なこととおっしゃっていました。クリスマスやバザー、募金活動などを通じてどこかで繋がって行けたらいいなと思いました。相互に豊かな人間関係が築けるのではないのでしょうか。

**YMCAによる不登校支援とナイトフォーラム  
計画—フリースクール運営・居場所ネットワーク・スタディツアー・保護者支援**

**議事録**



不登校テーマのナイトフォーラム概要と目的「第2回ナイトフォーラム」開会。

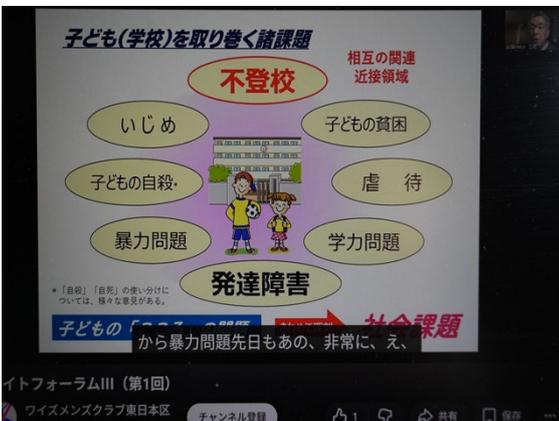
CS主催(会員増強委員会ではなくCSが主催との訂正あり)。

不登校に焦点を当てた3回連続企画。1回目1月、2回目2月、3回目は3月22日予定。

TOF(国際協会)からの資金を活用し、東日本区内の複数YMCAで不登校支援を推進。

ワイズメンズクラブとYMCAの「健全な青少年の育成」を軸に、支援と協働の拡大を目指す。

富山YMCAフリースクールの紹介(講演:神村氏)



経歴・事業概要:1994年入職。英会話、国際事業、キャンプ、ウェルネス等を担当。富山YMCAは1951年創立、英会話、受験指導、キャンプ、保育園・こども園、学童など展開。

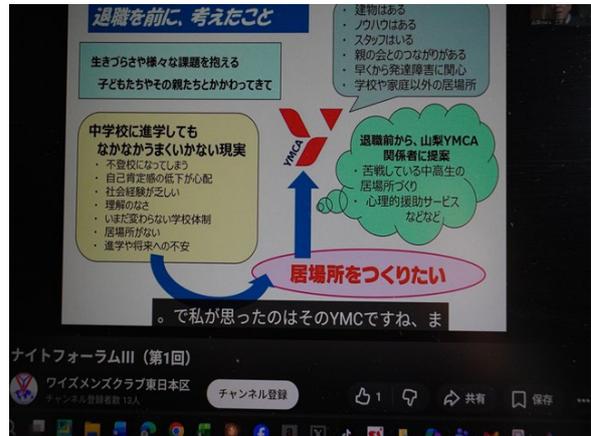
フリースクールの歴史・場所:1989年開始、36年目。富山駅から徒歩3分の駅前センター(8階建てビルの4~8階)が拠点。

対象と課題:不登校・中退、学習・行動の不応、人間関係の困難、学校生活の支障、引きこもり、就職前の停滞など多様。

子ども像と現場感:困難より楽しさ・発見・感動が多く、「普通で元気」で優しく繊細、深い思考と内的エネルギーを

持つ。支援=「かわいそう」や「問題児」という固定観念と距離がある。

関わり方:新卒時は戸惑いがあったが違和感は少なく、



子どもたちは話し相手・サポーターとして心強い存在。タイプは時代とともに多様化。

運営方針:フリースクールはパラダイスではなく、集団生活・ルール・我慢もあるが、ゆっくり時間が流れ、失敗が許され、気持ちを共有できる仲間がいる。特別視せず可能性を限定しない。

富山YMCAフリースクールの概要(機能と規模)

年間在籍約30名。小学生から20歳程度の社会人まで通い、完全不登校でなくても「学校が居づらい」子が対象。



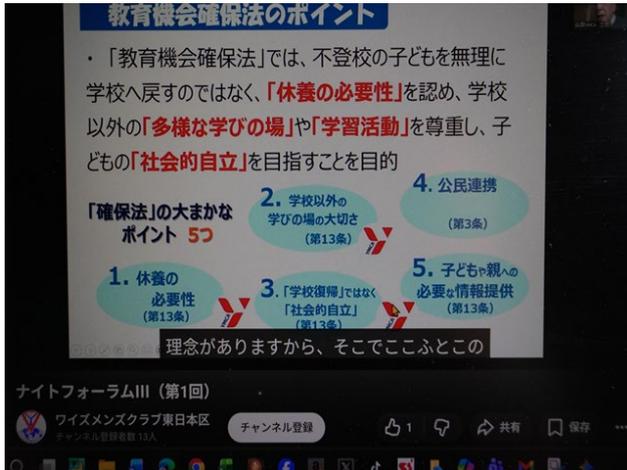
4つの柱(機能):

**フリースクール(受験・学習):**中学基礎から大学受験まで目的別コース。週30クラス+プライベート含め週50クラス。学習レベルや発達特性に合わせ細分化。

**フリースペース(居場所):**主に小学生不登校児が対象。料理・ゲーム・運動など自由参加。

**アフタースクール:**不登校・在在を問わず、やりたい学びに取り組む場。

YMC 学童:学校に行かない子ども通える学童。地元学童が難しい子、関わりの練習が必要な子ども利用。毎日30名以上。



自己肯定感・自信の育成:若い世代は謙虚だが自信が不足しがち。達成感と承認の積み重ねで醸成。学習は最も有効で、小さな達成から受験合格、英検、高卒認定試験(8教科・40点合格)などが大きな自信源。

### 活動事例とボランティア

**クリスマス劇:**子どもたちが自作台本で約100名の前で上演。人前が苦手な子ども生き生きと演じ、自信につながる。

**バザー・カフェ:**自作スイーツや持ち寄りでカフェ開催。震災・災害募金活動、チャリティークリスマス等を継続。コロナ禍・豪雪・能登地震時の行動:緊急事態宣言下でも自然体に来所し「ステイホームのやり方」を伝える、豪雪時も自分のペースを保つ、能登地震で瓶が破損した際に泊まり込みで片付けや支援に参加。困難でもペースを乱さない姿から癒しと学び。

**海外スタディツアー(ベトナム・カンボジア・フィリピン・レイテ島):**災害や支援が必要な地域へ渡航し、衣類などを1年かけて集めて届ける。任意参加で初海外の子が多く、現地到着後に行動変容(早起き、食事適応等)。視野が広がって価値観が解き放たれる。レイテ島は地元関係者を介し学校の依頼に応じ物資を届ける。参加は10~15名(子約10名+大人3名)、適度な楽しい活動も組み合わせ。海外環境で生活リズムが改善する傾向。

### 卒業と成長の可視化

自分の新しい道を決めてYMCを旅立つときが卒業。初来訪時は消極的だった子が、卒業時に後輩の前で人生や未来を堂々と語る。無限の可能性と秘めたエネルギーを各所で実感。

卒業式は「次へ進むための背中を押す(追い出す)」意図があり、困ったら戻れる場であることも強調。卒業生が現役を支える循環が生まれている。

### 不登校支援のゴール設定とYMCAの役割

不登校は特別な問題ではなく、状況が成長や輝きにつながる事例が多いとの認識共有。

学校復帰を必須とせず「社会に戻す」ことをゴールにすべきとの提起。YMCAは居続ける場にせず、次の進路へ送り出す「架け橋」機能を重視。

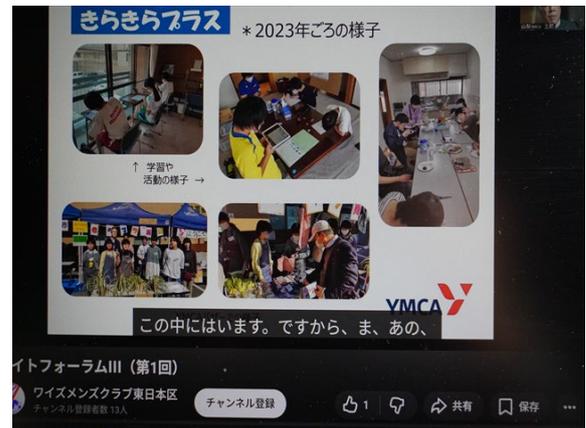
**結論:**ゴールは固定せず、社会への接続と再来可能な支えの循環を重視する方針で一致。

### 居場所と大人の役割・ネットワーク

子どもは認められ安心できる居場所があれば自分のペースで成長。居場所は学校・家庭・フリースクール・YMCなど多様。

合う学校や先生は子どもによって異なるため、多様な居場所のネットワーク化が有効。県内ネットワークで合う居場所に紹介・連携。

大人は信じて見守り、選択肢を提供し続け、必要な時に背中を押す役割が重要。



### YMCAにおける不登校支援の実態と課題

多くのYMCAで小規模ながら不登校の子が参加(目立たせない配慮)。学童とフリースクールには内容が類似し時間帯が異なる。午前から受け入れる柔軟運用例あり。

課題は人手不足・資金不足(人件費確保の難しさ、来所の不確実性)。既存プログラムの時間柔軟化とボランティア活用が支援拡大の鍵。

法制度の変化:校外の学びを支援・認定する方向の法改正が進行。校外取り組みが認められると「不登校」の概念が変化し選択肢が増加。

### ワイズ(WISE)との協働

クリスマス、募金、バザーでのコラボボランティアが機能。立場や年齢を越えた交流機会が多く、世界が狭くなった子どもにシニア世代のパワーが刺激に。適度な「ゆるさ」や多様な生き方に触れる体験が重要。

フィリピンのスタディツアーはワイズのシニアが引率する例あり。被災地支援や貧困支援に若い力を求め、現場で逞しく成長。摂食困難の子も現場で柔軟に対応し笑顔が増える。

**ワイズメンズによる関わりのヒント:**近隣YMCAがフリースクール未実施でも、月1回など低頻度の「話せる場所」「学習サポート」「おやつ・食事提供」等で居場所づくりが可能。「やっています」と掲示する可視化が必要につながる。世代多様なボランティア参加が効果的。

**さくらカフェ(子ども食堂的事業):**川越YMCAのキッチン見学を契機に富山YMCAでキッチンを設置し展開。フリースクール内の大きな事業として地域・卒業生とのつながりの場に。

**食の支援:**食事提供は子どもを緩め会話を促進(「居場所の胃は胃袋の胃」)。黙食世代にとって「一緒に食べる空間」は心理的安全性が高い。具体例としてスタッフが昼食を作り提供。

### スタッフ体制

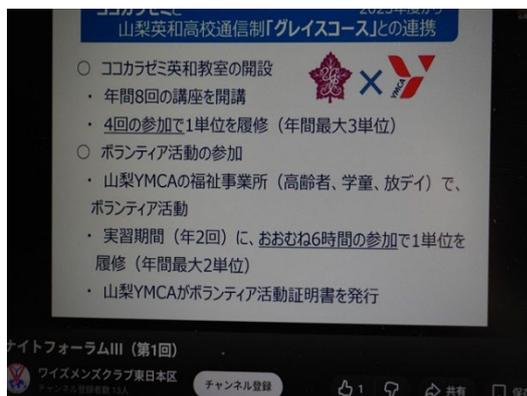
クラス担当は元教員、予備校講師、英語講師、英会話・TOEIC・英検経験者、発達支援関係者など多様。常勤は少数で、指導者は基本非常勤。大学勤務等と兼務、週末のみやボランティアも多い。

定期的なトレーニング制度は設けず、多様な視点・関わり方を維持する意図。

### 保護者支援の重要性

不登校支援は保護者支援が中心。母親の負担・孤立が大きく、相談・集まりで心を軽くすることが重要。保護者が受容すると子どもが学校へ戻るケースも多い。

経営上の課題:子どもが回復し学校へ戻るとフリースクールの継続収入が不安定。



### 不登校の現状認識と社会の変化

不登校が増え社会不安はあるが、選択肢が増え親子が楽になった側面も。課題は増えているが、解決しようとする人も増えている。学校に行く・行かないは「今の状況」に過ぎないという視点。

### 次の手配

3回目ナイトフォーラム(3月22日)の開催準備(具体的アジェンダ・登壇者・配信方法の確定と告知) フリースクール各機能(学習・フリースペース・アフタースクール・学童)の最新クラス数と利用状況の整理

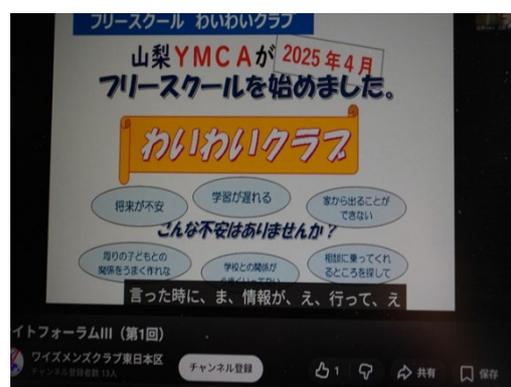
高卒認定・英検・受験支援の年間計画と達成指標の明文化(個別計画・模試・目標設定の標準フォーマット整備)

災害対応時の子ども参加型ボランティア手順書と安全管理(保険・衛生・宿泊運用)ガイドラインの整備

海外スタディツアー(レイテ島含む)の安全管理計画(健康管理、緊急時対応、保護者連絡体制)とキャンセルポリシーの明文化

現地学校からの支援依頼内容の収集と必要物資リスト・調達・輸送・予算計画の策定

卒業式・進路支援の運用方針の文書化と共有(「架け橋」機能の明確化、社会接続の評価指標設定)



非常勤・ボランティア向けの最低限のオリエンテーション

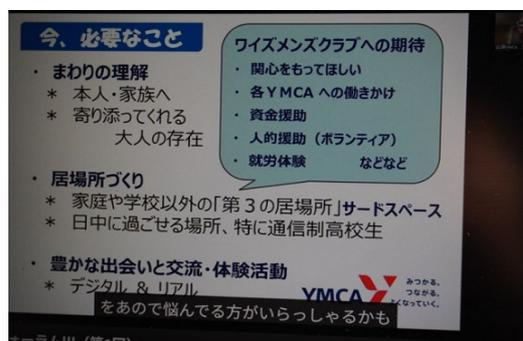
ン指針と関与形態・連絡体制の整備

ワイズとの定期協働枠組み(年次計画・責任者・連絡体制)の具体化、共同企画(募金・バザー)の計画

月1回の居場所(お茶会・おやつ作り・学習サポート)試行の検討と「午前中に来て良い」受け入れ姿勢の可視化

保護者向け相談会・交流会の具体メニュー(個別相談、ピアグループ、オンライン対応)と評価方法の策定

自己肯定感向上プログラムの評価指標(定量・定性)とフィードバックサイクルの設計



法制度の最新情報整理と校外支援の認定要件・学校連携手順の確認

クリスマス劇の台本作成と観客動員計画の準備、寄付・衣類収集の年間スケジュール策定

さくらカフェの事業継続性(資金・人員・運営指針)の中長期計画作成

## 東京YMCA 近況報告

### 2026年3月度 担当主事 西嶋健太

1. 1月31日、会員部主催の「ソシアスフォーラム2025」が山手センターで開催され、会員、職員、ボランティアなど、78名(内26名はオンライン)が参加した。前半では、中期計画推進委員長の上田晶平氏より「TOKYO YMCA VISION150」の進捗状況の報告があった後、大江浩氏(社会福祉法人賛育会法人事務局ミッションサポート部部长・赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト事務局長)より「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」が「問うこと」と題して基調講演をいただいた。後半は、小グループに分かれ、意見交換をした後、ユースリーダーによるレクリエーションやキャンプングを楽しんだ。会場では、能登半島地震・豪雨被災者支援のための物産販売を行った。
2. 2月11日、青山学院初等部を会場に「全体職員研修会」が実施され、233名の職員が参加した。講師の片柳弘史神父(カトリック宇部教会主任司祭)より「奉仕の実りは平和〜マザー・テレサの言葉に学ぶ」と題して講演をいただいた。その後、勤続5年、10年、20年、30年の正職員38名が表彰された。後半は事業部を越えて36のグループに分かれて意見交換をした他、各部の紹介を行った。
3. 2月12日より、春季キャンプ・スクールの受付を開始した。スキー、水泳、英語、キャンプなどの各種プログラムを準備している。今回もフレンドシップファンドを活用し、経済的に困難なご家庭には所得に応じて参加費を援助する。
4. 2月17～19日に「東日本地区YMCAスタッフ研修会」が福島で開催され、東日本地区の各YMCAの職員28人(内東京YMCA職員8人)が参加した。また、東日本地区YMCAの総主事9人も列席した。川上直哉牧師(NPO法人東北ヘルプ事務局長)、金迅野牧師(在日大韓基督教会横須賀教会)が講師をつとめ、原子力災害伝承館見学、語り部研修、福島県双葉町を散策した他、キリスト教理解を含め、多角的な学びの機会となった。
5. 今後の主な行事予定
  - ・「早天祈祷会」3月2日(山手センター/オンライン) 奨励:堀雄二氏(東京YMCAスタッフ)
  - ・「YMCAピンクシャツデー2026」(いじめ反対運動)
  - ・「認知症サポーター養成講座」3月19日(山手センター)
  - ・「職員就業礼拝」4月1日(オンライン)  
説教:古賀博牧師(日本基督教団早稲田教会)

## 高尾わくわくビレッジ便り

館長 西嶋健太

寒さの中にも、やわらかな春の気配が感じられる頃となりました。皆さまには日頃より高尾の森わくわくビレッジの活動に温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

2月は例年、利用者数がやや落ち着く時期でもあり、当館ではこの期間を活用して館内のメンテナンスや各種工事を進めております。今年度も体育室・研修室・教室の整備を行っており、より安全で快適にご利用いただける施設を目指して取り組んでおります。これに伴い、大人数での宿泊団体のご利用は一時的に減少しておりますが、その一方で、ご家族でのご利用は大幅に増加しております。結果として、全体の来館者数は例年と同様の水準を保っており、安定した運営が続いております。

また、2月17日から19日にかけて福島にて「東日本地区YMCAスタッフ研修会」が開催され、東京YMCAからは8名の職員が参加いたしました。そのうち2名は、当ビレ



ジの職員でございます。事業移管後、これまで東京YMCAの理念や活動に直接触れる機会が限られておりましたが、本研修を通してYMCAの歴史や使命、地域社会との関わり方について理解を深めることができました。今後は、こうした学びを職員間で共有し、YMCAの理念のさらなる浸透を図ってまいります。

季節は移ろい、間もなく新年度を迎えます。これからも高尾の森わくわくビレッジは、自然の中で人と人が出会い、学び合う場として、より良い環境づくりを努めてまいります。引き続き、皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ひつじぐも便り

中央大学法学部1年 松田裕依

こんにちは。中央大学法学部1年で、ひつじぐものワイズ係に所属している松田祐依と申します。最近受験シーズンと重なり、塾講師のアルバイトで慌ただしい日々を過ごしていました。ありがたいことに担当していた生徒は全員無事に合格し、報告を受けた際には自分のことのように嬉しく感じました。生徒の努力を間近で見えてきたからこそ、人と向き合い、支えることの責任とやりがいを改めて実感しています。

さて、私は夏休みにひつじぐもの活動でタイを訪れ、人身売買について学びました。現地での学習や当事者の方のお話を通じて、日本人が加害者となっているケースや、被害者が日本で働かされている現実を知り、強い衝撃を受けました。この経験は、その後の私の生活に大きな影響を与えたと感じています。以前は海外の問題をどこか遠いもののように捉えていましたが、日本とのつながりを知ったことで、社会問題を自分とは無関係と切り離せなくなりました。

帰国後は、報告会や授業での発表を通して学びを共有しています。また、ニュースを見る際も、海外の出来事を自分事として考えるようになりました。最近、タイの少女が日本で働かされているという報道を目にした際も、以前とは異なる視点で、より身近な問題として受け止める自分がありました。

この経験を一度きりの思い出にせず、日々の選択や学びの姿勢に生かしていくことこそが、今の自分にできることだと感じています。これからも社会問題に目を向け、自分なりに考え、行動し続けていきたいと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



タイ児童保護施設の子供達

## ひつじぐも追い出しコンパ オンライン

ひつじぐも委員長兼ワイズ係代表・霞ひかる

2月17日(火)18時より、Zoomを用いて「2025年度ひつじぐも4年生を送る会」を開催しました。平日の開催ということもあり、参加が難しい方もいらっしゃいましたが、当日は20名を超える方々にご参加いただくことができました。

当日は、参加して下さった4年生の先輩方に、これまでの活動を振り返っての思いや現役生へのメッセージをお話しいただきました。また、卒業後の進路や今後についても触れてくださり、活動を通して得た経験がそれぞれの進路につながっていることを感じる機会となりました。現役生からは、現在のサークルの活動状況について近況報告を行いました。さらにワイズメンズクラブやひつじぐもOB・OGの皆様にもご参加いただき、4年生に向けて温かいコメントをいただく場面もありました。

私は現在2年生のため活動歴は浅いですが、4年生の方々が低学年の頃の活動についてお話しされているのを聞き、とても新鮮に感じました。特に、外部団体との交流が以前から続いていたものであることを改めて知り、今の活動もこうした積み重ねの上で成り立っているのだと実感しました。

今回の送る会を通して、これまで活動を支えて下さった4年生の皆さんへの感謝の気持ちを改めて感じるとともに、先輩方から受け継いできた活動を今後も大切に続けていきたいと思いました。参加して下さったワイズメンズクラブの皆様、本当にありがとうございました。



Zoom参加者の皆さん

## お祝いの気持ちで

八王子ワイズメンズクラブ 並木 真

卒業される4年生のみなさまへ

4年生のみなさま、ご卒業おめでとうございます。

ワイズメンズクラブの例会によく顔を出して下さい、ありがとうございました。みなさまの中には、AYC ネパールに参加して下さい方もいらっしゃると思います。岩崎葵さんは、その後のNYCドバイ、AYC 熊本にも参加して下さいました。また、ユースアクションにもチャレンジして下さいましたね。ちょうど私がクラブ会長を務めさせて頂いた時と重なって

いたので、皆さまとの交わりがとても懐かしく思えます。八王子駅前での街頭募金活動では、皆さまの呼びかけにとても助けられました。久しぶりに復活したチャリティーコンサートで、一緒に準備をして下さりありがとうございました。私自身もクラブに入って初めての体験でした。様々な活動を一緒に出来たということは、私たちにとってもとてもいい経験、思い出になっています。ご卒業されて、それぞれの道を歩んでいかれると思います。どの職業においても大切なのは「誰かの役にたつこと。」だと思っています。当たり前のことですが、それが「仕事」なんだと思います。どうぞ、ひつじくもでのつながりと経験を忘れずに、それぞれの道を歩んで頂きたいと思います。また、自分に余裕が出来たら、様々な経験をさせてくれた「ひつじくも」の活動を支えてあげてください。あなたが経験させてもらったように、あなたの後輩に経験をさせてあげてください。最後に、ぜひ時間が出来たらまたワイズメンズクラブにも遊びに来て下さい。またお会いする日を楽しみにしています。

## お祝いの気持ちで ②

八王子ワイズメンズクラブ 山本英次

中央大学「ひつじくも」卒業生の皆さんへ

ご卒業、誠にありがとうございます。皆さんが「ひつじくも」のメンバーとして、私たち八王子ワイズメンズクラブの活動に全力で向き合ってくれた日々を思い返すと、感謝の念に堪えません。

特に、能登半島大地震被災者支援の募金で見せてくれた、真摯な姿が今も目に浮かびます。街頭で声を枯らし、道行く方々に支援を訴えかける皆さんの真っ直ぐな想いは、多くの人の心を動かしました。

また、チャリティーコンサートでは、裏方の細かなお手伝いから当日の運営まで、多大なるお力添えをいただきました。皆さんの明るい笑顔とテキパキとした行動があったからこそ、あのような温かな空間を作り上げることができたのだと確信しています。

ボランティアという活動を通じて、世代を超えて皆さんと「誰かの力になりたい」という想いを共有できたことは、私たちにとってもかけがえのない財産です。

これから社会という広い空へ飛び立っていく皆さん。時には困難に直面することもあるかもしれませんが。そんな時は、八王子の街で共に汗を流したこと、そして自分たちの活動が誰かの支えになったという誇りを思い出してください。

皆さんの歩む道が、希望に満ちた素晴らしいものになるよう、八王子からずっと応援しています。長い間、本当にありがとうございました。

## ドイツ語学研修体験記

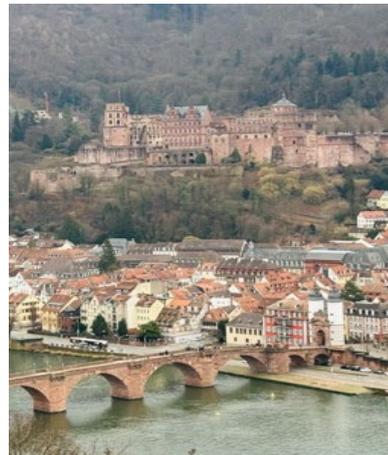
(寄稿) ひつじくも 2年 霞ひかるさん

この春、ドイツ・ハイデルベルクにて二週間の語学研修に参加しました。歴史ある大学都市であるハイデルベルクは、国際色豊かな学生が集う街で、歴史的な街並みの中で学ぶことができました。語学学校では午前中に文法の授業、午後に会話の授業がありました。午前のクラスには、イスラエル、トルコ、パレスチナ、中国、メキシコ、オランダなど、さまざまな国・地域出身の学生が在籍していました。授業はすべてドイツ語で行われ、最初は不安を感じていました。しかし、クラスメイトたちは文法が完璧でなくても積極的に発言しており、先生も誤りを細かく指摘するより会話を続けることを大切にしていました。そのおかげで私も次第に発言できるようになり、完璧でなくても言葉は伝わるのだと実感しました。午後の授業では、前日の出来事を話すなど、日常会話を中心とした実践的なやり取りを行いました。二週間目には自分から質問や意見を述べられるようになり、短い間に自分の成長を実感できたことが嬉しかったです。

さらに、今回の研修では、ドイツが移民を多く受け入れている社会であることを、ハイデルベルクの語学学校を通して身近に感じました。ニュースで「移民問題」や「多文化共生」という言葉を見ると、対立や課題が強調される印象がありましたが、教室ではさまざまな国籍の学生が同じドイツ語を学び、それぞれの目的に向かって努力していました。多文化共生には多くの課題があると思いますが、語学学校は互いの違いを過度に意識せずと同じ目標に向かう場でした。この経験から、多文化共生はスローガンとして掲げるものというより、異なる背景を持つ人たちが同じ社会で生活する中で形づくられていくものなのではないかと感じました。

挑戦の連続でしたが、毎日が新鮮で、食事や街並みも含めて楽しい二週間でした！

写真はハイデルベルクの  
観光名所ハイデルベルク城と古橋です。



## 2026年2月第一例会報告 書記・小口多津子

日時:2026年2月14日(土)18:00~20:00

会場:八王子市北野事務所大会議室 担当C班 15名

出席者:ゲスト/(卓話者)三浦すみえ氏、ひつじくも(小倉美柚さん、2年)、クラブ/長谷川、稲葉、並木(真)、小口、花輪、久保田、久保田佐和子、望月、山本、大久保、西嶋、並木(信)、並木雍子。

司会:西島

卓話:「フードバンク八王子えがお」の働きの今 お話:

三浦すみえ氏(NPOフードバンク八王子えがお事務局長)「フードバンク八王子えがお」始まりは、2014年八王子母親大会での講演会から立ち上がった。お節介おばさん地域をつなぐ、貧困の連鎖を断ち切るために今、わたしたちは、今年、10周年を迎える。

諸報告:【1】長谷川会長

- ・2月強調月間の断食の時の説明(並木信一ワイズ)
- ・区大会(石巻大会)6月6日の申し込みが済んだ、コードから各自で。
- ・ワイズナイト、フォーラム2回目 2月15日
- ・ユースアクションに今年もひつじくもが応募し、クラブから推薦。テーマは海洋プラスチックごみ問題。東日本区の応募審査を受ける。

【2】YMCA 報告、西嶋担当主事

【3】3月街頭募金 花輪さんから計画書プリント配布

- ・3月7日(土)集合pm1時、JR八王子駅北口階段下集合、黄色ジャンパー、交番届け出は並木さん済み、物品材料は花輪さん、並木(信)、真さん所持、
- ・募金テーマは引き続き「能登半島地震・豪雨被災者支援」・近隣ワイズへの呼びかけ、ひつじくもからの応援依頼。

【4】第24回チャリティーコンサート 花輪実行委員長プリント配布 3月28日(土)9:30、8階ロビーにクラブ集合。プログラム稲葉さん作成。印刷、山本さん。詳細は、2月28日第二例会。

【5】スマイル・・・11,500円

【6】ハッピーバースデー 久保田佐和子さん21日、西嶋由紀子さん15日

2月17日(火)ひつじくも4年生を送る会・報告

2月17日、pm6:00~ ZOOM参加。卒業生4年生、白羊会、東京八王子ワイズ、先輩、現学生から出席者それぞれの言葉でお祝した。司会は委員長の霞ひかるさん。八王子参加者は、長谷川会長、久保田さん、花輪さん、小口、最初に1年間のひつじくもの諸報告(八王子市児童館の子ども達イベント参加、わたぼうし祭り手伝い、ごみ拾い

活動、企画係の川口市異文化交流)

諸報告の中では、予定に、第23回全国学生YMCA日韓交流プログラムにひつじくもから2名参加。2月26日~3月1日まで、韓国ソウル。2月例会出席の小倉美柚さんとほか1名が参加。

今後の予定に、八王子クラブチャリティーコンサートお手伝いとあります。

今年のひつじくも卒業生は、登録されている4年生は23名(ひつじくも在籍数116名)。

この日の送る会に出席の4年生の言葉は、青山真之介さん、藤原直輝さん、折原さんはメッセージで参加。先輩からの言葉、関口さん、柳原さん、曾山さん、渡辺さんほか。

八王子ワイズから送る言葉を代表して、長谷川会長。続いて久保田さん、花輪さん、小口で祝辞。

クラブからのメッセージで、山本英次さん、並木真さんのメッセージが画面に披露されました。思い出多い卒業生の彼らに、八王子クラブへこれまでの参加に、ご協力に感謝した次第です。

2026年2月第二例会・報告 小口多津子(書記)

日時:2026年2月28日(土)18時~

場所:北野事務所

出席者:稲葉、長谷川、並木真、小口、望月、花輪、久保田、山本(8名)

<これからの予定> 長谷川会長

◎3月7日(土)街頭募金(花輪実行委員長)

目的「能登半島震災支援募金」 集合:13:00

場所:JR八王子駅北口階段下

- ・並木さんのまとめた概要に沿って、呼びかけ。
- ・募金グッズ(募金箱、横断幕等)は花輪さん、立て棒は並木真さん、黄色ジャンパー着用
- ・雨天実施かの判断は、午前10時まで、花輪さんと長谷川会長で相談し、クラブラインに流す。午前中が雨でも、午後から晴れる予報なら、予定通り実施。
- ・募金集計は、サイゼリアで。
- ・メンバー他は、ひつじくもの霞さん、程さん、前田さん(真友人)、多摩スマイルから田中さん参加。

◎3月14日~15日 次期クラブ会長研修会(東山荘)、久保田副会長出席。

◎3月28日(土) 第24回チャリティーコンサート 花輪実行委員長

- ・全員の集合は、午前9:30 8階ロビー、実行委員長の挨拶、仕事開始、
- ・10時30分、出演者到着、控室案内、
- ・JCBL代表清水氏到着
- ・舞台看板・舞台上看板を並木信一さんが保管。
- ・プログラムと歌詞作成は、稲葉さん、→印刷は山本さ

ん・・各 350 枚

- ・アンケート作成・・花輪さん、→ 印刷は・山本さん、
- 4月11日(土) 4月第二例会・・B班、
- 4月18日(土) あずさ部第2回評議会、八王子クラブホスト 高尾の森わくわくビレッジ研修室1
- ・12:30～17:30、13時登録、13:30開始、1部評議会、2部懇親会(グループ話し合い)
- ・会費、500円
- ・司会(第1部・・久保田さん、第2部・・花輪さん)  
出席者数は、50～60名を予想。
- ・お茶とお菓子を用意、お菓子は、能登半島震災で被災され立ち上がった御菓子司(吉野家)の和菓子。
- 1月東京YMCAソシアスフォーラム担当の熊沢さんに問い合わせ中。
- 4月25日(土)4月第一例会(B班) 18:00 北野事務所例会前にW4W活動(北野町周辺)
- 5月9日(土) 5月第二例会(C班)
- 5月16日(土)10:00～ 中大ひつじくも新入生歓迎草刈・BBQ(C班)高尾の森わくわくビレッジ
- 5月23日(土)東京YMCA会員大会(山手センター)、AMに現会長・次期会長。
- 6月6日(土)東日本区大会(石巻)6月6日(土)
- ◎2028-29年度理事推薦。
- ◎提案事項・・第二例会をZOOMに、案件によって会長判断。 以上

**3月ご誕生されたメンバー**  
**長谷川あや子さん 3月19日**  
**並木 雍子さん 3月19日**



台湾高雄ポートクラブからのお祝いメッセージ

## 2月例会卓話者紹介 三浦すみえさん

1943年、静岡県清水市(現、静岡市清水区)生まれ。

静岡大学教育学部卒業



東京都立立川聾学校に入職。

その後、小平養護学校(現、小平特別支援学校)、八王子東養護学校(現、八王子東特別支援学校)、八王子養護学校(現、八王子特別支援学校)歴任。退職後は女性団体の役員や、母親大会実行委員会などで活動。

2014年と2015年の八王子母親大会で「子どもの貧困」について学び、学んだことを活かそうと考え、2015年の大会で講師をしてくださった佐野英司氏を中心にフードバンク活動を開始。

2016年9月フードバンク八王子えがお結成大会。事務局長着任。

2017年3月「特定非営利活動法人フードバンク八王子えがお」となって現在に至る。



## 2月例会 卓話概要 フードバンク八王子えがおの 運営現状・課題

### 概要

フードバンク八王子えがおの活動経緯・現状と課題、通常支援・パントリー・子ども応援プロジェクトの実態、食品調達(フードドライブ・企業寄贈・米寄付)と財務・人材面の運営状況、他フードバンクとの関係、制度の狭間にある世帯の具体事例、行政への期待を整理した現状報告

### 要約

フードバンク八王子えがおは、2016年9月に発足し、元教員の講師が中心となって子どもの貧困や単身・精神疾患を抱える成人など多様な困窮世帯へ食支援を継続している。

食品はスーパー等の常設ボックスやイベント型フードドライブ、市民チャリティで調達し、コープみらい・シンカハモニーから定期的な米寄付を受ける一方、企業の余剰削減により全国協議会経由の企業寄贈が減少。支援は月1回最大6回の通常支援(受け取り・配送・宅急便)と、来所型のパントリー(市内6拠点、年5回)を運用。通常支援は母子世帯中心で家計逼迫が顕著、パントリーは20~30代単身男性で精神疾患により就労困難な事例が増加。給食のない長期休暇に限定支援する子ども応援プロジェクトは保管スペース逼迫により冬枠を150→120に縮小した。物価高騰でフードドライブ寄付量はコロナ期の半分程度に減少し、配布量・回数の調整を検討中。東京都から食品購入専用の月12万円補助があるが、家賃等の運営費は対象外で年会費3,000円の会員制度に依存し会員減で資金不足が課題。ボランティアは物資整理が火・金に7~8人、常設ボックス回収担当が20人強で私有車負担。高齢化が進み後継人材の確保が急務。八王子地域では2016年に3団体が立ち上がり、広域支援の「たま(TAMA)」や中町の「フードバンク八王子」(セカンドハーベスト調達・パントリー中心)と比較して、「えがお」は店舗ボックス方式と無償ボランティア運営が特徴。祖父母が孫を扶養しても法的扶養者が親のため公的支援が届かないなど制度の狭間の事例が複数確認され、行政の適切な支援を強く期待している

### 知識ポイント

#### 設立背景と組織体制

元教員の現場体験から子どもの生活困窮に対する問題意識を育み、2016年に「えがお」を結成。初代理事長は佐野英二氏。教会拠点をランチとして協力。

#### 食品調達の仕組み

スーパーアルプス・ダイエー・稲毛屋・コープみらいなど

に常設ボックス設置、自然派クラブ生協・東都生協・復活協会・立正厚生会・カーブス・やまゆり館祭り・JR 駅などでイベント回収。セレオで初のフードドライブ実施。企業寄贈は近年大幅減少。

### 支援設計

通常支援は世帯状況を電話確認のうえセット調整、受け渡しは事務所・配送・宅急便。パントリーは市内6拠点、来所のみ、単身向け3~4日分の量。子ども応援では保存性のある生鮮(根菜・りんご)を限定的に含める場合あり。

### 利用者属性と制度課題

母子世帯の家計圧迫、単身若年層の精神疾患による就労困難、祖父母扶養家庭への支援不整合など、制度の狭間の事例が多い。

### 運営資源(人・物・金)

物価高で寄付量減、東京都の月12万円補助で食品購入は補えるが運営費は会員制度頼み。ボランティアは車両費自己負担、高齢化で後継育成が急務。

### 他団体との関係

「たま(TAMA)」は広域・有給常駐、「フードバンク八王子」はパントリー中心・セカンドハーベスト調達。「えがお」は店舗ボックス方式が独自。

### 宿題・課題

#### フードバンク運営・支援

フードドライブ常設ボックスの設置拠点拡大とイベント型回収の年間スケジュール化

企業寄贈減少への対応策(地域企業新規アプローチ、提供可能品目の提案)

米の安定調達パートナー拡充

倉庫兼事務所のスペース課題の解決(拡張・サテライト倉庫・入出庫効率化)

受け取りオプション最適化(拠点開所時間周知、宅配委託基準明確化)

子ども応援プロジェクト冬枠拡大に向けた資源・人員・スケジュール確保

利用者属性別の支援設計見直し(母子世帯向けセット、単身・精神疾患の方への案内支援)

アンケート葉書の継続収集・分析と改善サイクル構築

東京都月12万円補助の最適配分(品目優先順位・在庫管理)

行政への政策提言準備(物価高・単身者支援・制度の狭間の事例集)

会員制度(年会費3,000円)の新規獲得施策(広報・説明会・SNS)

若手ボランティア募集と後継育成(募集要項・研修設計)

協力店舗との連携強化(ボックス表示統一・カード掲示・店頭啓発)

生鮮品限定導入の可否検討(保存性・コスト・安全性・価格動向)



東京八王子ワイズメンズクラブ

対人地雷・クラスター爆弾廃絶のために

第24回

# チャリティコンサート

2026年  
3月28日(土)

13:30開場 14:00開演  
16:00終演  
八王子市北野市民センター  
8階ホール  
(京王線北野駅2分)

### 主な曲目

- ・山田耕筰：あわて床屋
- ・黎錦光：夜来香(イェライシャン)
- ・ヘンデル：オペラ「リナルド」より  
“私を泣かせてください”
- ・グノー：オペラ「ファウスト」より“宝石の歌”
- ♪皆で歌いましょうコーナー♪
- その他、カンツォーネ、懐かしい日本の歌など

※なお、曲目は変更する場合がございます

### 出演者

山口佳子 ソプラノ (やまぐち よしこ)  
 矢崎貴子 ピアノ (やざき たかこ)



ソプラノ 山口佳子  
やまぐちよしこ

八王子市出身、在住。都立八王子東高等学校卒業、東京藝術大学声楽科卒業、同大学院修士課程修了。2005年藤原歌劇団「ラ・チェネントラ」クロリнда役でデビュー後、4年間イタリアへ留学。第11回オルヴィエート国際コンクール第一位(オペラ部門)。ペーザロ・ロッシーニ音楽祭「ランスへの旅」コルテゼ夫人役、トリエステ歌劇場「カルメン」ミカエラ役他、欧州各地の公演に出演。帰国後も様々なオペラ公演で主要な役を務め、近年は日生劇場主催「セビリアの理髪師」、藤原歌劇団公演「ランスへの旅」、「カルメン」、「ジャンニ・スキッキ」、「コジ・ファン・トゥッテ」、「ファルススタッフ」等に出演。地元八王子でも、西本智実指揮「第九」のソプラノ口、市制100周年記念オペラ「アイダ」に巫女長役で出演、その他「アイバンク・チャリティコンサート」、「八王子deオペラ」シリーズ等、様々なコンサートに出演している。CDに日本歌曲集「樋口一葉～恋の和歌～」、ソロアルバム「ミロワール」がある。藤原歌劇団団員。



ピアノ 矢崎貴子  
やざきたかこ

山梨県出身。八王子市在住。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学を卒業。同研究科修了。ピアノを岡村玲子、北村陽子、野島稔の各氏に師事。研究科修了時、安川記念ジョイントリサイタルに出演。これまでに、新国立劇場、日生劇場、セイジオザワ松本フェスティバル、二期会など、様々なオペラ公演に稽古ピアニストとして携わる。また、東京混声合唱団とも共演を重ねている。学習院OBブラス合奏団伴奏者。現在、二期会研修所、国立音楽大学大学院オペラ科ピアニスト。

### 入場整理券

1,000円

お問い合わせ先：  
花輪宗命  
(090-2213-0257)

主催：東京八王子ワイズメンズクラブ  
後援：八王子市

地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)